

2024年4月30日
株式会社日本政策金融公庫

持ち直しの動きが緩やかになっている生活衛生関係営業の景況

生活衛生関係営業の景気動向等調査結果（2024年1～3月期）

（前回）持ち直しの動きが緩やかになっている生活衛生関係営業の景況

<業況判断DI>（2ページ）

- 業況判断DIは、前期から16.8ポイント低下し、▲11.0となった。
- 来期は18.8ポイント上昇し、7.8となる見通し。

<売上DI>（3ページ）

- 売上DIは、前期から8.0ポイント低下し、7.9となった。
- 来期は5.0ポイント上昇し、12.9となる見通し。

<採算DI>（4ページ）

- 採算DIは、前期からマイナス幅が5.6ポイント拡大し、▲6.7となった。

<経営上の問題点>（9、10ページ）

- 経営上の問題点は、「仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難」が50.3%と最も多く、次いで、「顧客数の減少」（41.2%）、「従業員の確保難」（21.2%）の順となった。

※ 11ページ以降に業種ごとの業況判断理由を掲載しています。そのほか、本調査で収集した「経営取り組み事例」を日本公庫ホームページに掲載しています（https://www.jfc.go.jp/n/findings/seikatu_kekka_m_index.html）。

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 国民生活事業本部 生活衛生融資部 生活衛生情報支援グループ TEL03-3270-1653（担当：和知、青木）
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

【調査の実施要領】

調査時点	2024年3月上旬		
調査方法	郵送調査		
調査対象	生活衛生関係営業 3,290 企業		
有効回答企業数	3,125企業（回答率 95.0%）		
（業種内訳）	飲食業	1,421 企業	映画館 61 企業
	食肉・食鳥肉販売業	157 企業	ホテル・旅館業 180 企業
	氷雪販売業	53 企業	公衆浴場業 109 企業
	理容業	423 企業	クリーニング業 258 企業
	美容業	463 企業	

【本調査における留意事項】

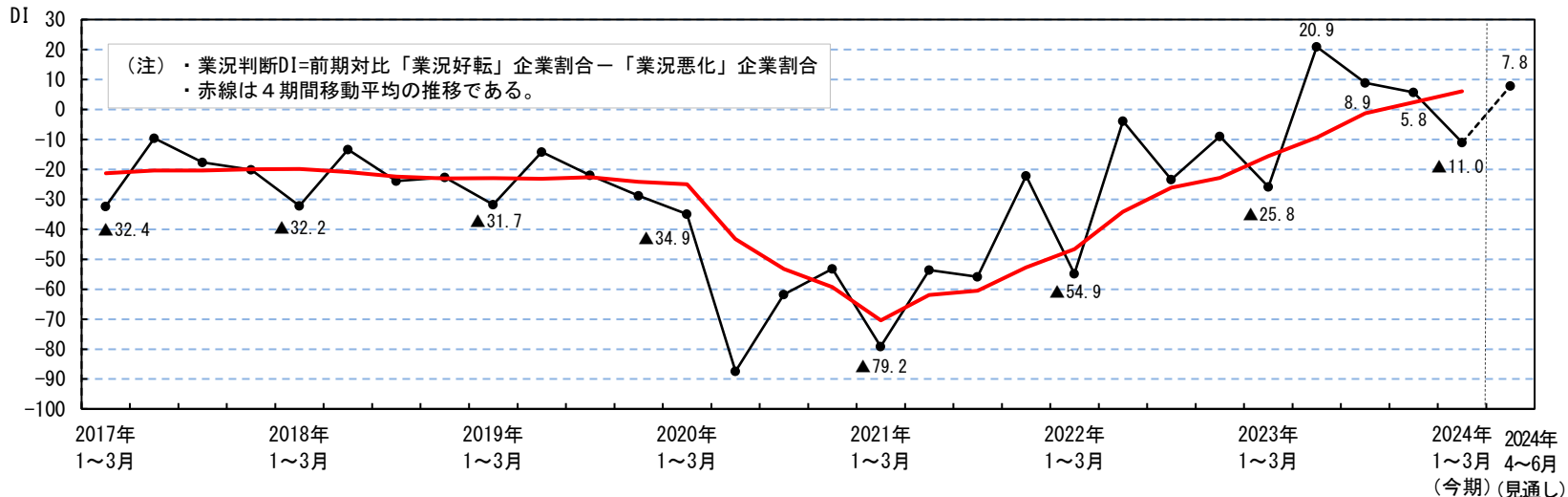
- 比率の算出にあたっては、無回答を除いたものを母数としている。

I 景気の動向

1. 業況判断

- 業況判断DIは、前期から16.8ポイント低下し、▲11.0となった。
- 来期は18.8ポイント上昇し、7.8となる見通し。

図表1 業況判断DIの推移（全業種計）



図表2 業種別 業況判断DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2023年 1~3月	2023年 4~6月	2023年 7~9月	2023年 10~12月	2024年 1~3月 (今期)	2024年 4~6月 (見通し)
食肉・食鳥肉	▲ 22.4	15.8	▲ 1.3	2.6	▲ 13.4	11.5
氷 雪	▲ 21.8	35.7	61.1	▲ 5.5	▲ 24.5	20.8
理 容	▲ 36.8	▲ 2.6	▲ 2.6	▲ 18.1	▲ 25.5	▲ 5.2
美 容	▲ 33.8	▲ 0.7	▲ 7.4	▲ 13.5	▲ 20.5	3.2
映 画 館	11.3	49.2	▲ 15.8	▲ 29.5	▲ 8.2	▲ 11.5
ホテル・旅館	▲ 3.4	58.5	45.9	38.5	▲ 6.7	27.8
公衆浴場	▲ 9.1	▲ 2.7	▲ 7.2	13.4	12.8	▲ 8.3
クリーニング	▲ 52.5	26.6	▲ 21.1	9.2	▲ 39.1	9.7

図表3 飲食業 業況判断DIの推移

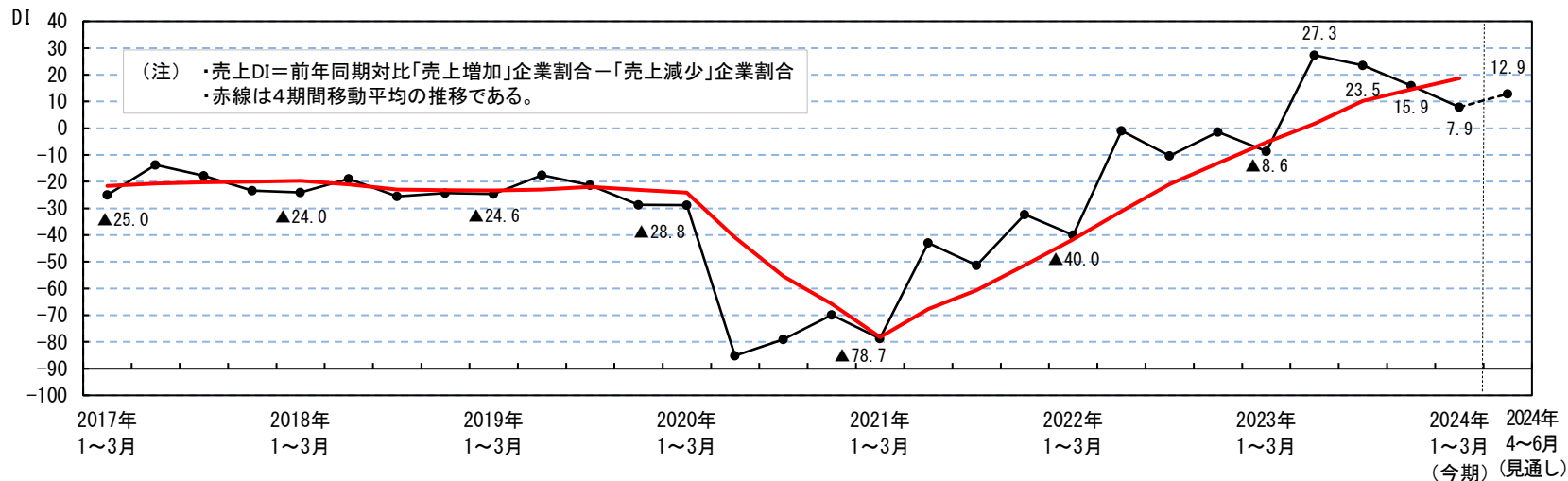
凡例	2023年 1~3月	2023年 4~6月	2023年 7~9月	2023年 10~12月	2024年 1~3月 (今期)	2024年 4~6月 (見通し)
飲食業(全体)	▲ 21.3	29.2	19.4	15.9	▲ 0.1	11.5
そば・うどん	▲ 23.5	29.8	24.6	6.3	▲ 7.1	4.9
中華料理	▲ 13.8	23.0	14.5	14.5	6.9	11.0
す し	▲ 30.9	24.6	15.6	13.9	▲ 11.2	4.5
料 理	▲ 13.7	49.2	29.3	42.3	13.1	17.2
喫 茶	▲ 7.0	32.9	18.2	11.8	1.3	7.9
社 交	▲ 42.4	13.2	8.3	▲ 5.9	▲ 5.6	8.2
その他飲食	▲ 16.8	33.5	23.1	25.5	3.1	18.4

※ 表中の網掛けは、全業種計の割合を上回るものを表す(以下同じ)。

2. 売上

- 売上DIは、前期から8.0ポイント低下し、7.9となった。
- 来期は5.0ポイント上昇し、12.9となる見通し。

図表4 売上DIの推移（全業種計）



図表5 業種別 売上DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2023年 1~3月	2023年 4~6月	2023年 7~9月	2023年 10~12月	2024年 1~3月 (今期)	2024年 4~6月 (見通し)
食肉・食鳥肉	▲5.4	24.7	13.4	13.6	14.7	21.8
氷雪	16.4	46.4	64.8	45.5	▲1.9	13.2
理容	▲29.9	▲1.7	0.7	▲7.6	▲12.8	▲1.4
美容	▲23.9	0.0	▲3.9	▲15.5	▲4.1	1.1
映画館	21.0	54.1	▲7.0	▲19.7	▲16.4	▲9.8
ホテル・旅館	42.0	62.6	59.0	54.3	22.3	30.7
公衆浴場	▲6.4	12.5	5.4	12.5	26.6	2.8
クリーニング	▲34.7	19.3	8.0	17.7	▲21.7	▲4.3

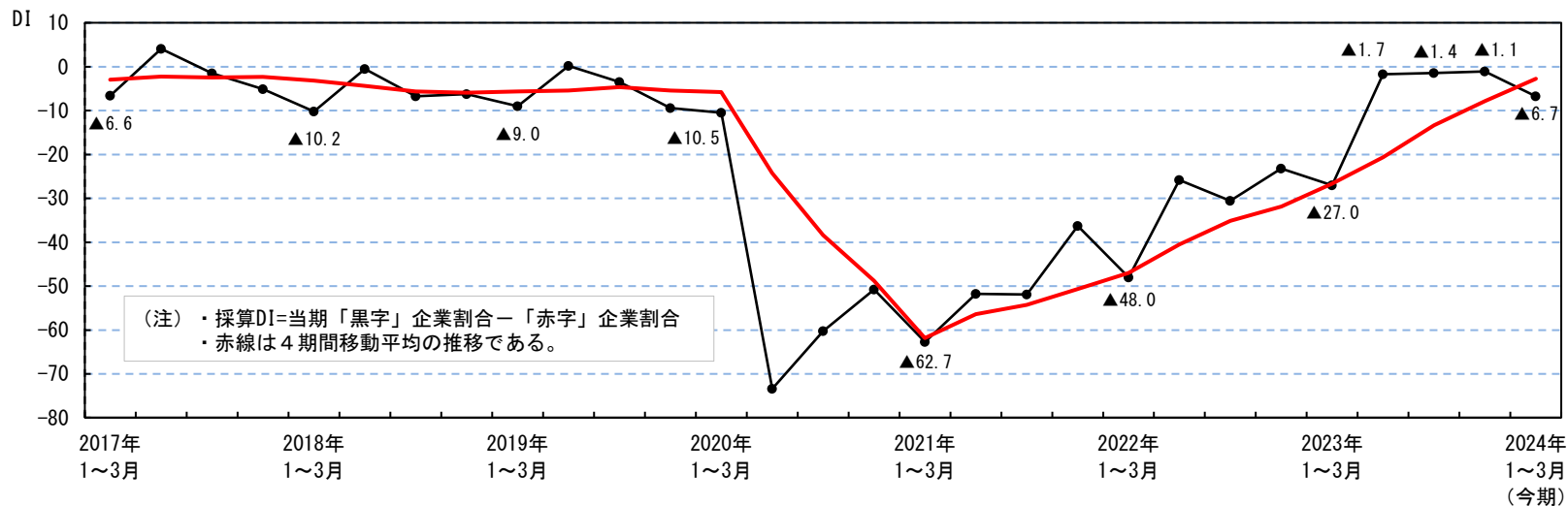
図表6 飲食業 売上DIの推移

凡例	2023年 1~3月	2023年 4~6月	2023年 7~9月	2023年 10~12月	2024年 1~3月 (今期)	2024年 4~6月 (見通し)
飲食業(全体)	▲1.7	40.9	39.0	28.7	20.7	22.6
そば・うどん	▲7.1	43.3	46.2	33.0	22.7	22.1
中華料理	▲10.7	36.5	38.8	27.6	26.9	27.6
すし	▲5.5	40.7	36.1	26.7	5.6	8.4
料理	3.2	63.5	36.6	48.8	30.3	30.3
喫茶	5.1	37.7	32.7	26.8	21.1	19.7
社交	▲12.1	25.0	32.7	3.0	13.3	20.5
その他飲食	6.6	43.5	43.1	34.9	24.4	26.5

3. 採算

○ 採算DIは、前期からマイナス幅が5.6ポイント拡大し、▲6.7となった。

図表7 採算DIの推移（全業種計）



図表8 業種別 採算DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2023年 1~3月	2023年 4~6月	2023年 7~9月	2023年 10~12月	2024年 1~3月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲10.9	7.0	6.7	11.6	18.5
氷雪	▲43.6	▲5.4	27.8	16.4	▲32.1
理容	▲14.3	1.4	5.3	▲0.7	0.9
美容	▲18.1	▲0.9	▲7.7	▲8.9	▲9.9
映画館	▲19.4	4.9	▲15.8	▲36.1	▲31.1
ホテル・旅館	▲18.6	12.8	16.4	22.4	▲10.6
公衆浴場	▲9.1	0.9	▲3.6	4.5	14.7
クリーニング	▲45.9	4.2	▲8.4	0.8	▲27.1

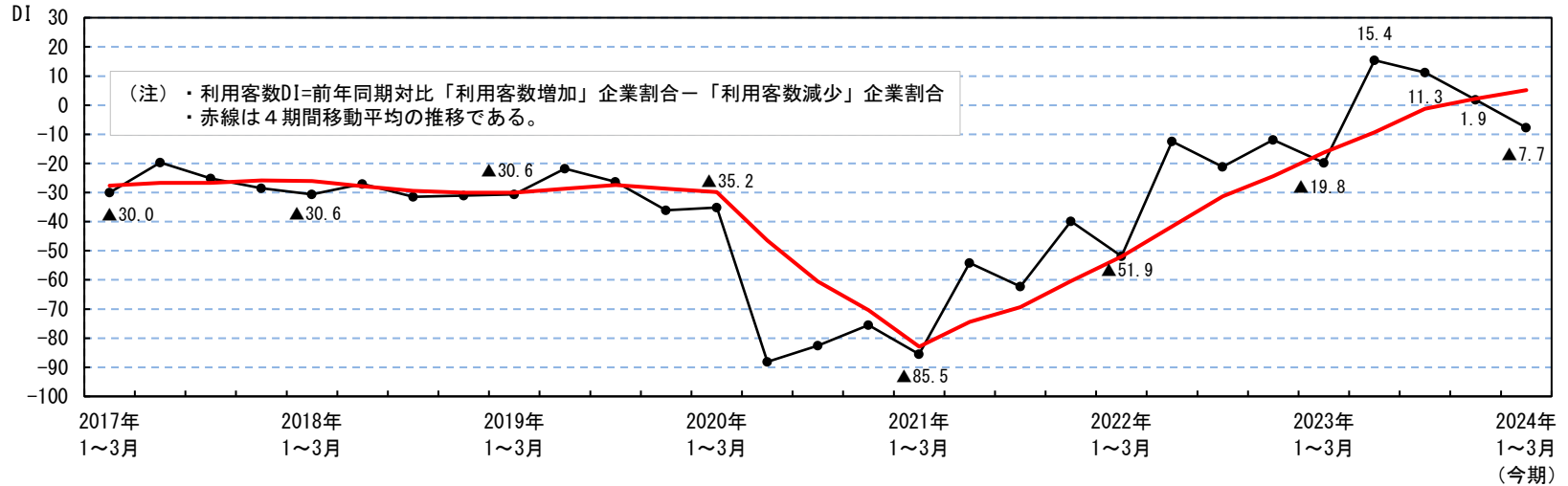
図表9 飲食業 採算DIの推移

凡例	2023年 1~3月	2023年 4~6月	2023年 7~9月	2023年 10~12月	2024年 1~3月 (今期)
飲食業(全体)	▲34.1	▲7.1	▲3.6	▲2.8	▲6.2
そば・うどん	▲25.1	7.4	10.9	4.7	▲2.7
中華料理	▲23.9	▲7.4	2.0	2.6	▲6.2
すし	▲29.3	▲1.1	▲3.9	▲8.3	▲10.7
料理	▲42.7	▲4.8	▲12.2	2.4	▲2.5
喫茶	▲31.8	▲9.7	▲1.3	▲13.7	▲12.5
社交	▲53.5	▲31.2	▲23.8	▲26.2	▲17.3
その他飲食	▲32.9	▲4.2	▲0.4	7.2	0.2

4. 利用客数

○ 利用客数DIは、前期から9.6ポイント低下し、▲7.7となった。

図表10 利用客数DIの推移（全業種計）



図表11 業種別 利用客数DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2023年 1～3月	2023年 4～6月	2023年 7～9月	2023年 10～12月	2024年 1～3月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲ 8.2	1.9	▲ 12.1	▲ 5.8	▲ 7.7
水 雪	▲ 5.5	10.7	▲ 44.4	12.7	▲ 20.8
理 容	▲ 39.7	▲ 14.4	▲ 12.3	▲ 25.8	▲ 22.7
美 容	▲ 37.8	▲ 13.2	▲ 16.6	▲ 30.1	▲ 25.8
映 画 館	12.9	50.8	▲ 1.8	▲ 19.7	▲ 18.0
ホテル・旅館	32.4	56.7	50.3	38.7	5.6
公衆浴場	▲ 4.5	7.1	▲ 1.8	3.6	8.3
クリーニング	▲ 47.1	▲ 2.3	▲ 7.7	▲ 7.3	▲ 36.8

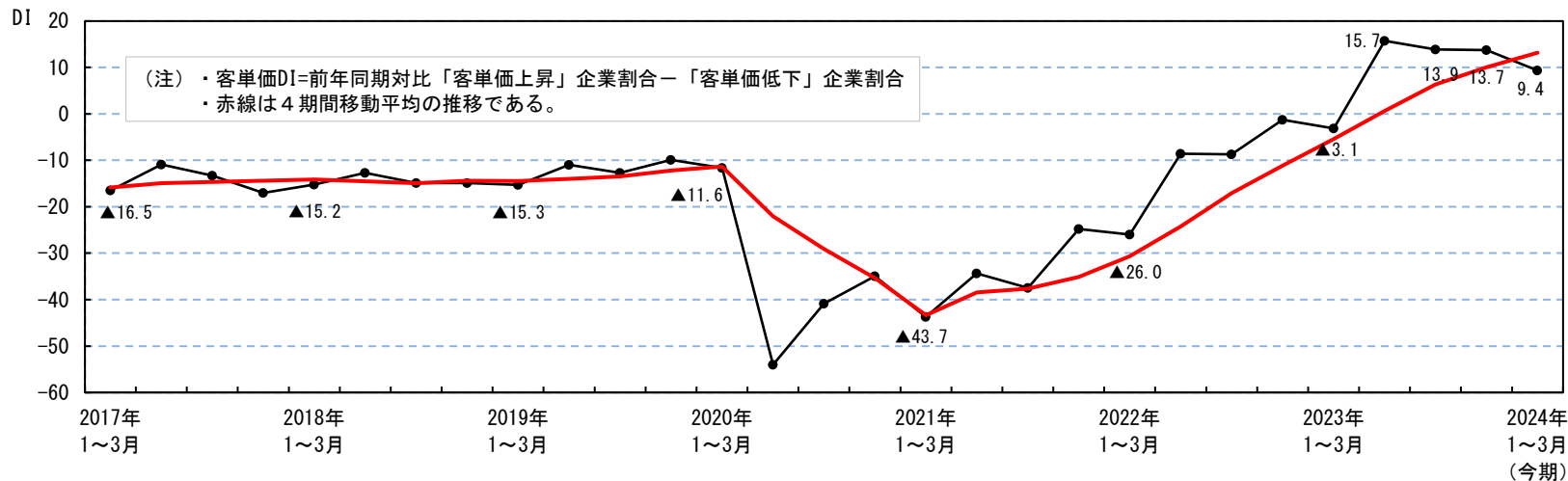
図表12 飲食業 利用客数DIの推移

凡例	2023年 1～3月	2023年 4～6月	2023年 7～9月	2023年 10～12月	2024年 1～3月 (今期)
飲食業(全体)	▲ 13.8	31.8	28.0	18.5	5.9
そば・うどん	▲ 20.8	34.2	37.9	15.7	4.4
中華料理	▲ 17.6	28.4	22.4	19.7	12.4
す し	▲ 13.3	30.2	23.3	13.3	▲ 8.4
料 理	▲ 7.3	51.6	30.1	37.4	13.1
喫 茶	▲ 11.5	30.5	20.3	10.5	▲ 2.0
社 交	▲ 28.8	13.7	13.2	▲ 3.0	▲ 1.0
その他飲食	▲ 5.4	35.8	36.7	28.8	13.9

5. 客単価

○ 客単価DIは、前期から4.3ポイント低下し、9.4となった。

図表13 客単価DIの推移（全業種計）



図表14 業種別 客単価DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2023年 1~3月	2023年 4~6月	2023年 7~9月	2023年 10~12月	2024年 1~3月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲ 8.8	9.5	▲ 1.3	1.3	4.5
水 雪	▲ 10.9	0.0	38.9	18.2	▲ 1.9
理 容	▲ 16.4	0.7	1.7	▲ 0.7	▲ 2.6
美 容	▲ 11.0	5.4	▲ 1.1	1.3	1.5
映 画 館	6.5	13.1	19.3	24.6	24.6
ホテル・旅館	33.0	50.8	53.6	53.2	36.9
公衆浴場	▲ 1.8	14.3	13.5	19.6	19.3
クリーニング	▲ 31.7	8.5	0.0	▲ 0.4	▲ 15.1

図表15 飲食業 客単価DIの推移

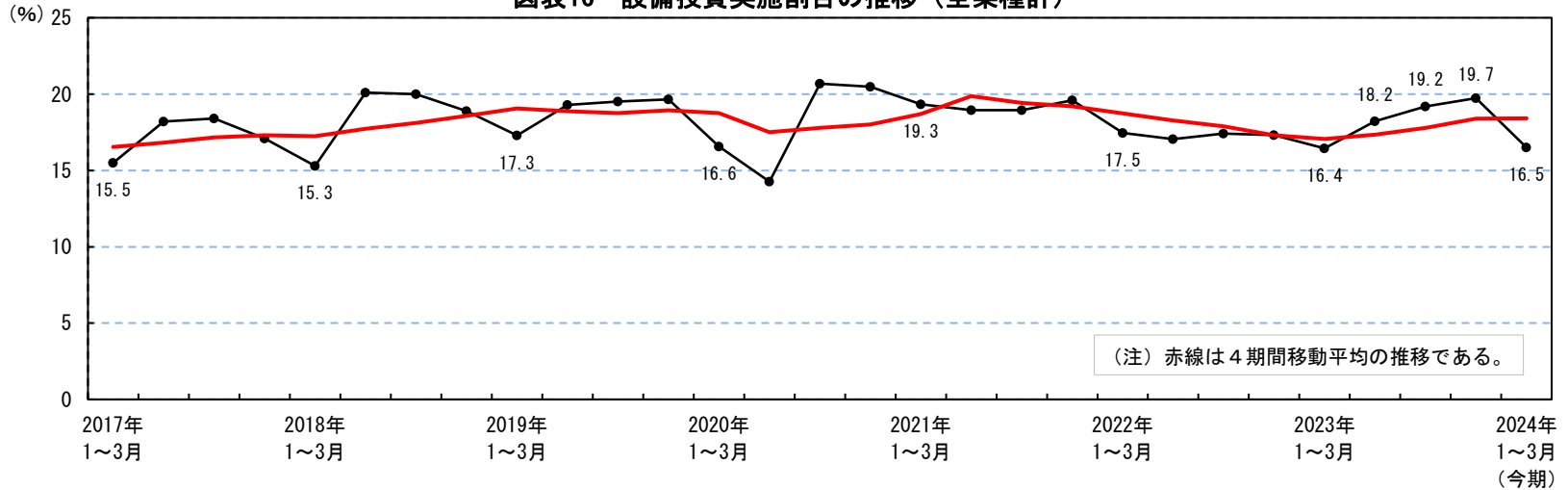
凡例	2023年 1~3月	2023年 4~6月	2023年 7~9月	2023年 10~12月	2024年 1~3月 (今期)
飲食業(全体)	4.5	21.6	20.0	19.9	16.0
そば・うどん	5.5	31.6	33.0	29.8	24.9
中華料理	▲ 8.2	18.2	23.0	21.1	6.9
す し	▲ 0.6	19.2	13.3	16.1	9.6
料 理	8.9	25.4	24.4	37.4	29.5
喫 茶	12.2	26.0	26.1	19.0	16.4
社 交	▲ 4.0	5.9	1.5	▲ 6.0	3.1
その他飲食	10.8	24.1	21.6	24.0	19.7

Ⅱ 設備投資の動向

1. 設備投資の実施状況

○ 今期（2024年1～3月）に設備投資を行った企業の割合は、前期から3.2ポイント低下し、16.5%となった。

図表16 設備投資実施割合の推移（全業種計）



図表17 業種別 設備投資実施割合の推移（飲食業を除く） (%)

凡例	2023年 1～3月	2023年 4～6月	2023年 7～9月	2023年 10～12月	2024年 1～3月 (今期)
食肉・食鳥肉	23.8	29.1	32.7	34.2	29.3
氷雪	20.0	16.1	5.6	10.9	7.5
理容	6.9	9.3	10.3	9.3	8.5
美容	10.3	12.1	10.9	14.8	10.8
映画館	33.9	32.8	36.8	36.1	34.4
ホテル・旅館	46.3	44.1	45.9	48.3	46.7
公衆浴場	35.5	43.8	39.6	40.2	37.6
クリーニング	21.2	18.9	18.4	18.1	14.7

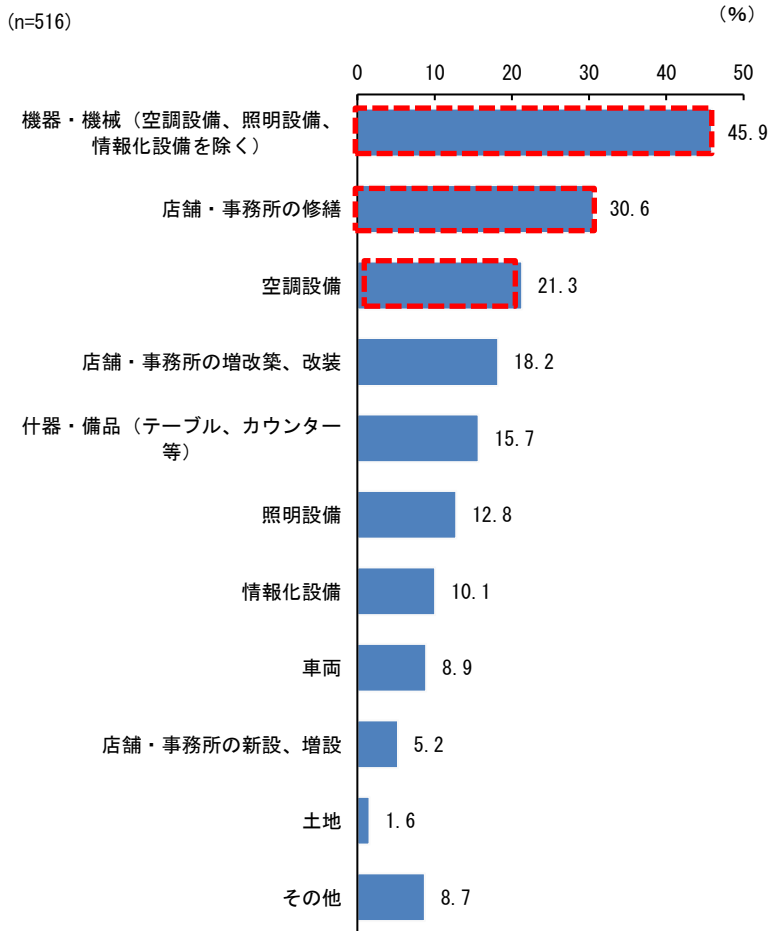
図表18 飲食業 設備投資実施割合の推移 (%)

凡例	2023年 1～3月	2023年 4～6月	2023年 7～9月	2023年 10～12月	2024年 1～3月 (今期)
飲食業(全体)	13.6	15.6	18.0	17.7	13.8
そば・うどん	15.8	22.9	23.5	17.7	16.5
中華料理	11.3	14.2	17.8	16.4	10.3
すし	12.7	13.7	17.2	19.4	12.4
料理	21.8	22.2	22.0	26.0	19.7
喫茶	9.6	14.8	13.0	12.4	11.8
社交	6.6	10.7	13.6	11.9	9.7
その他飲食	16.1	14.3	18.7	19.6	15.2

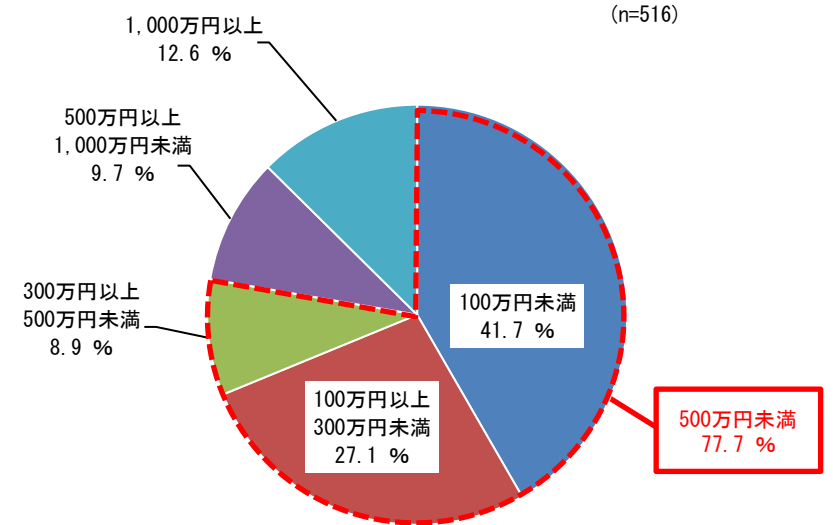
2. 設備投資の内容、設備投資金額、来期の設備投資計画

- 今期（2024年1～3月）の設備投資の内容は、「機器・機械（空調設備、照明設備、情報化設備を除く）」が45.9%と最も多く、次いで、「店舗・事務所の修繕」（30.6%）、「空調設備」（21.3%）の順となった。
- 今期の設備投資金額は、500万円未満が全体の7割超を占めた。
- 来期（2024年4～6月）の設備投資計画については、「実施予定あり」が12.7%となった。

図表19 設備投資の内容
(全業種計、複数回答(金額の大きい順に3つ以内))



図表20 設備投資金額（全業種計）



図表21 業種別 来期の設備投資実施予定割合
(飲食業を除く) (%)

凡例	2024年 4～6月期の予定
全業種計	12.7
食肉・食鳥肉	21.0
氷雪	7.5
理容	7.1
美容	8.4
映画館	29.5
ホテル・旅館	40.6
公衆浴場	29.4
クリーニング	7.4

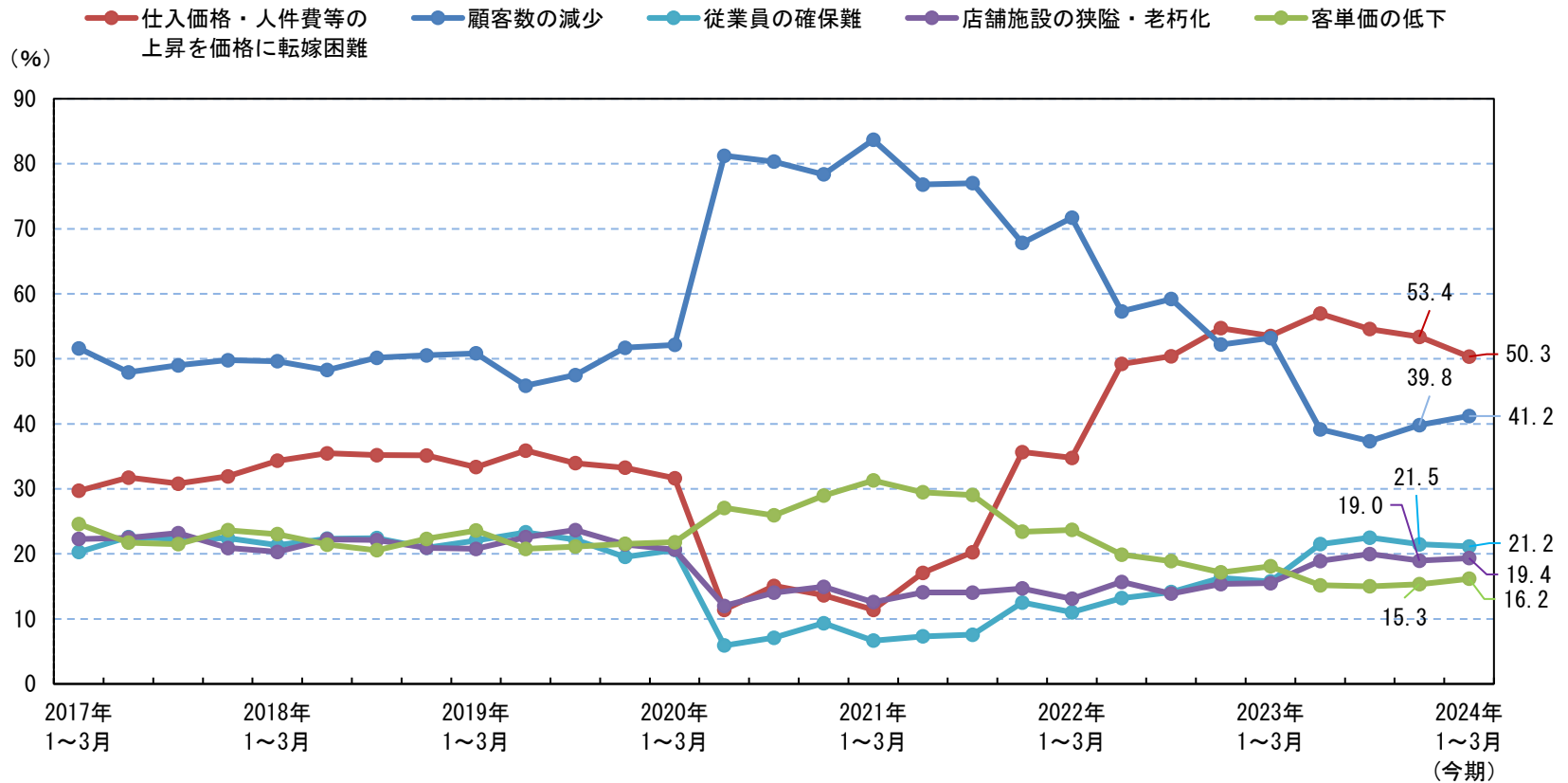
図表22 飲食業 来期の設備投資実施予定割合 (%)

凡例	2024年 4～6月期の予定
飲食業(全体)	10.6
そば・うどん	11.0
中華料理	11.0
すし	14.0
料理	15.6
喫茶	6.6
社交	5.6
その他飲食	11.0

Ⅲ 経営上の問題点

○ 経営上の問題点は、「仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難」が50.3%と最も多く、次いで、「顧客数の減少」(41.2%)、「従業員の確保難」(21.2%)の順となった。

図表23 主な経営上の問題点の推移（全業種計、複数回答（2つ以内））



図表24 業種別 主な経営上の問題点（2024年1～3月）

(%)

項目	仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難	顧客数の減少	従業員の確保難	店舗施設の狭隘・老朽化	客単価の低下	後継者難	事業資金借入難	その他	特に問題なし
全業種計	50.3	41.2	21.2	19.4	16.2	6.1	3.4	3.8	7.3
飲食業(全体)	65.6	34.2	24.7	16.0	11.7	6.5	4.1	2.5	5.0
そば・うどん	64.8	29.1	29.1	24.7	11.5	6.6	3.8	1.6	3.8
中華料理	72.4	22.8	17.2	23.4	12.4	6.2	1.4	3.4	6.2
すし	64.0	37.1	17.4	13.5	10.1	11.8	3.9	1.7	7.9
料理	60.7	29.5	32.0	22.1	7.4	7.4	5.7	2.5	4.1
喫茶	72.4	31.6	16.4	18.4	7.2	7.2	5.3	2.6	4.6
社交	53.6	57.1	23.0	6.1	17.3	3.6	4.6	2.0	6.1
その他飲食	68.6	30.9	29.8	12.8	12.3	5.4	4.0	3.1	3.8
食肉・食鳥肉	58.0	25.5	28.7	22.3	16.6	4.5	1.9	5.1	6.4
氷雪	43.4	43.4	15.1	15.1	13.2	13.2	1.9	3.8	9.4
理容	26.0	53.4	11.1	15.1	23.9	5.9	1.2	5.9	16.1
美容	27.4	52.3	15.3	14.0	24.6	5.8	4.3	5.8	11.2
映画館	37.7	60.7	16.4	47.5	3.3	4.9	4.9	4.9	0.0
ホテル・旅館	50.0	23.9	52.2	40.0	5.0	4.4	5.0	3.9	1.1
公衆浴場	43.1	37.6	9.2	56.0	2.8	13.8	1.8	4.6	3.7
クリーニング	50.4	58.1	9.7	17.1	30.2	1.9	1.6	2.3	6.2

(注) 複数回答（2つ以内）のため合計は100を超える。

IV 業況判断理由

今期：2024年1～3月 来期：2024年4～6月

(1) そば・うどん

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	埼玉県	仕入価格、光熱費等の高騰を販売価格に転嫁したことで、売上が増加した。
	悪化	山梨県	物価高騰により節約志向が定着しているようで、客数が大きく減っている。
来期	好転	長野県	今期は閑散期だが、来期は観光客が増え客足も伸びるだろう。
	不変	山形県	大型連休等で客数は増加を見込むが、原材料費や経費の上昇分を価格に転嫁できていないため、収益面は現状維持の見通し。

(2) 中華料理

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	愛知県	これまでランチが中心だったが、夜の宴会需要もあり、客数・客単価ともにアップした。
	不変	福岡県	顧客の財布のひもが固く、客単価が下がっている。出前も単品の注文が多い。
来期	好転	埼玉県	コロナが5類に移行した後、人流が活発になっており、売上は増加傾向が続く見通し。
	不変	島根県	来期は行楽シーズンのため、売上の増加が期待できるが、物価高騰の影響で業況は変わらないだろう。

(3) すし

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	広島県	県外からの観光客やインバウンドに支えられた。メニュー価格の引き上げもスムーズにできた。
	悪化	福岡県	原材料費の高騰により原価率が悪化し、売上は伸びても、利益確保が難しくなっている。
来期	好転	大分県	アジアからのインバウンドが増加傾向であり、客単価上昇につながる見込み。
	不変	青森県	予約や問い合わせは増えているが、人手が足りず、十分に受け入れることができない。

(4) 料理

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	愛媛県	コロナ禍が収束し、客数が増えている。また、円安を追い風にインバウンドが客単価を引き上げている。
	悪化	岐阜県	人手不足による営業活動の縮小に加え、原材料費、人件費等の高騰が響いている。
来期	不変	新潟県	コロナが5類に移行した後、売上は順調に推移していたが、従業員数や設備の面から、今以上の売上増加は望めない。
	悪化	長崎県	慢性的な人手不足で予約を全て受入れできる状況になく、厳しさが増している。

(5) 喫茶

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	徳島県	コロナ禍が落ち着き、外出機会が増えたことで、来店客数が大幅に増加した。
	不変	茨城県	売上増加が原材料費の高騰と相殺され、業況は変わらない。
来期	不変	岩手県	暖かくなれば客足は戻ると思われるが、物価高騰が続いており、好転はしないだろう。
	悪化	群馬県	物価高騰により外食への支出が抑制されていることに加え、原材料費や光熱費の高騰による利益の圧迫も続いており、業況はますます厳しくなる見通し。

(6) 社交

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	三重県	忘年会やクリスマスを契機に、個人や団体からの予約が回復してきた。
	不変	兵庫県	コロナ禍が落ち着き、常連客を中心に客足は戻りつつあるが、光熱費、人件費等の高騰が収益に大きく影響している。
来期	好転	鹿児島県	来期は人の動きが活発になるため、各種イベント開催に伴う二次会需要に期待している。
	悪化	岐阜県	人手を確保しないと業況は良くなれないが、高い時給でスタッフを募集しても人が集まらない。

(7) その他飲食

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	和歌山県	地域内の祭事・イベントが復活したことに伴い、仕出し弁当関係が好調である。
	悪化	三重県	物価高騰に伴い家計の負担が増えるなか、外食の支出を抑える傾向が高まっており、夜の客数が極端に減っている。
来期	好転	奈良県	来期は暖かくなり、春休み、お花見等の行楽シーズンに入ることから、客数の増加を期待している。
	不変	秋田県	人手不足が深刻化し、現状維持で精いっぱい。

(8) 食肉

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	山梨県	新年会等で飲食店に団体客が増えたため、卸売部門の需要が安定した。また、小売部門も順調に推移している。
	悪化	福井県	令和6年能登半島地震で直接被害を受けた飲食店が多く、休業による注文キャンセルが相次いだ。
来期	不変	福岡県	仕入価格は一時期に比べると落ち着いているが、物価高騰の影響で、客数の減少、客単価の低下が続く可能性が高い。
	悪化	京都府	仕入価格の上昇分が転嫁できていない上、客数が増加する見込みがなく、依然として厳しい状況。

(9) 食鳥肉

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	岡山県	卸売部門は、新年会等で飲食店からの受注が増加傾向にある。小売部門も、唐揚げや焼き鳥など加工品の売れ行きが好調。
	悪化	東京都	卸売部門は回復傾向にあるが、価格転嫁が進まず、利益確保が追い付かない状況。
来期	好転	広島県	新規開業の飲食店が増え、受注先の確保ができています。
	不変	大阪府	原材料費の高騰により仕入価格が上昇しているが、販売価格へ十分に転嫁できていない。

(10) 氷雪

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	大阪府	コロナ禍が落ち着き、飲食店から安定して注文が入るようになった。
	悪化	和歌山県	物価高騰の影響で繁華街の人出が少なくなり、飲食店からの注文が、頻度・量ともに不安定になっている。
来期	好転	福岡県	来期は暖かくなり、ゴールデンウィークも昨年以上の人出が見込まれるため、業況が好転することを期待している。
	不変	東京都	資材などの仕入価格が高止まりしており、値上げをしたが利益確保は厳しい状況。来期は行楽シーズンのため、各種イベントに伴う需要回復に期待している。

(11) 理容

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	神奈川県	コロナ禍の影響が収束したのはプラス材料だが、物価が高騰したため、理容への支出を控える傾向がある。
	悪化	京都府	客層の高齢化に加え、物価高騰による消費意欲の低下で来店頻度が減り、減収が続いている。
来期	好転	山形県	来期は、入学式や転勤、就職等で人流が増加するため、新規客の増加に期待したい。
	悪化	長野県	物価高騰が続いているため、来店サイクルがさらに長期化することを心配している。

(12) 美容

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	宮城県	成人式、卒業式等の着付け需要が順調に推移しており、コロナ禍前の水準を上回る状況。
	悪化	愛知県	時給を上げて募集をかけても、スタッフの確保が難しくなっており、予約客数を制限している状況が続いている。
来期	好転	岡山県	来期は春のイベントシーズンになるため、着付けを含むセットメニューの注文が増えて、客単価が大幅にアップすることを期待している。
	不変	岩手県	物価高騰に見合う賃金上昇がない限り、消費者の財布のひもは固く、美容への支出が増える見込みはないだろう。

(13) 映画館

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	埼玉県	上映作品に恵まれ、客数は増加傾向にあったが、物価高騰により娯楽費を抑える動きが見られた。
	悪化	大阪府	今期は目玉作品がなく、集客数が振るわなかった。
来期	好転	岡山県	コロナ禍で中止されていた、子供会や児童クラブの団体鑑賞が再開される見込みであり、売上の増加が予想される。
	悪化	岐阜県	上映予定作品に目立った話題作がなく、厳しい興行が予想される。

(14) ホテル・旅館

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	青森県	インバウンドの体験型ツアー需要が増え、客単価が大幅にアップした。
	悪化	徳島県	全国旅行支援の終了により、観光客の宿泊が減少し、厳しさが増している。
来期	好転	大阪府	円安の影響でインバウンドが増加している。ゴールデンウィークで国内観光客の増加も見込める。
	不変	秋田県	宿泊客数は増えているが、食材費や光熱費、人件費等の上昇により、業況は変わらないだろう。

(15) 公衆浴場

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	大分県	常連客の来店サイクルが安定していることに加え、サウナを利用する若年層も増えている。
	悪化	静岡県	物価高騰により常連客の節約意識が高まり、入浴回数が減少している上に、燃料の値上げもあり、利益は減少している。
来期	不変	京都府	しばらくはサウナブームが続き、季節に関係なく、客数は安定すると予想している。
	悪化	北海道	物価高騰による家計費の負担増加で、高齢者世帯を中心に入浴回数が減ってきている。

(16) クリーニング

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	埼玉県	料金改定で売上は伸びたものの、燃料費等の仕入価格が上昇し、収益は改善していない。
	悪化	佐賀県	暖冬と物価高騰の影響により、クリーニング需要が落ち込んでいる上、燃料費等の上昇も加わり、対応策すら見出せない状況。
来期	好転	広島県	来期は冬物の衣替え需要が最盛期を迎えることから、ダウンジャケット、コート等、単価の高いものが増えることを期待している。
	悪化	青森県	資材費、光熱費等の上昇分の価格転嫁が十分にできていない。衣替え需要も暖冬の影響を受けるだろう。